

企業概要

本 社	佐賀県小城市小城町253番地4
設 立	1905年
資本金	2,000万円
代表者	代表取締役社長 音成 信介
従業員数	46名
業 種	印刷業
事業内容	- 紙媒体の印刷・製本 - 企画・デザイン - WEBサービス



脱炭素経営の背景とスローガン

■ 脱炭素経営のきっかけ・背景

近年までは、「GX」「脱炭素」等は当社にとってあまり馴染みのない言葉でしたが、昨今の社会動向や地球温暖化の影響の顕著な現われから意識を始め、まずは経営方針としてGXに取り組んでいくことを表明しました。

GXの取組を、スタッフへの意識・機運醸成からはじめました。ローカルの中小企業でも必要性を共有し、脱炭素という大きな課題に取り組んでいきたいと思っています。

代表取締役社長 音成 信介



■ GXスローガン

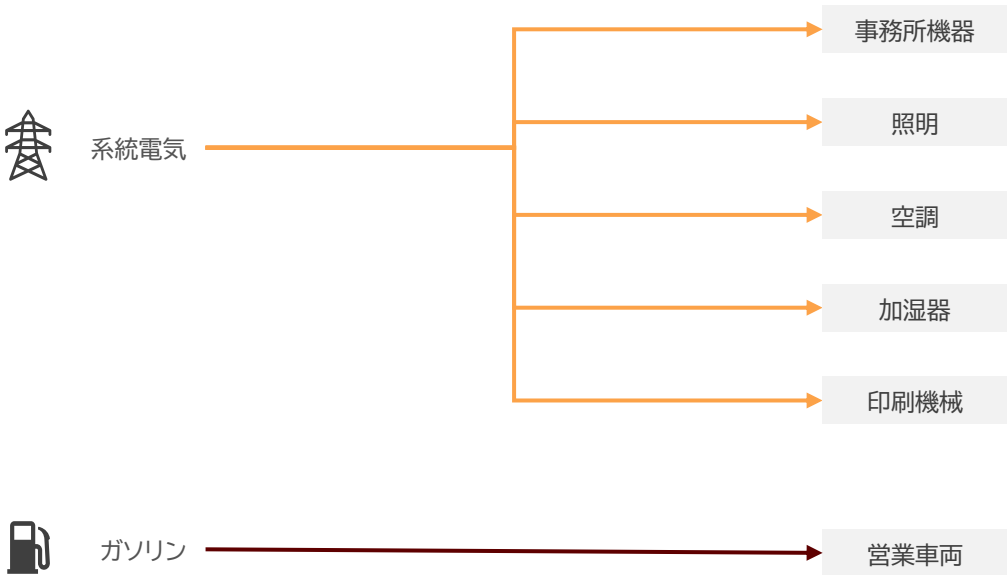
エコはいつでもおとなりに

このスローガンには、GXと聞く難しく感じてしまうが、身近にできることがあり、当社ではそのような小さな取組を社員全員で積み重ねていくという思いを込めています。

エネルギー使用状況の可視化

■ エネルギーフロー図

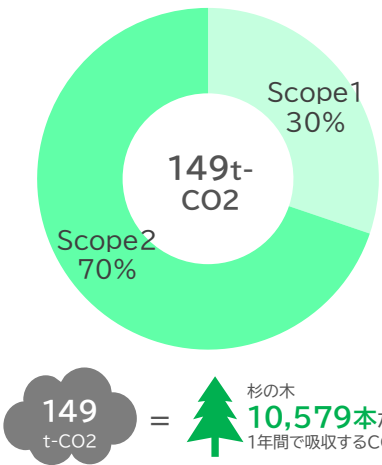
当社で使用しているエネルギーは電気、ガソリンの2つです。事務所機器、照明、工場設備で電力を消費しています。中でも、印刷機械や印刷物の品質を保つための空調にて多くの電気を使用しています。ガソリンは営業車に使用しています。



■ 自社排出量の内訳

2023年度の自社活動によって排出された温室効果ガス量の合計は149トンでした。これは、杉の木のCO2吸収量/年に換算すると10,579本分になります。

当社のGHG排出量内訳は、自社で使用する燃料由来のCO2排出量(Scope1)が45t-CO2、他社から供給された電気・熱使用由来のCO2排出量(Scope2)が104t-CO2です。

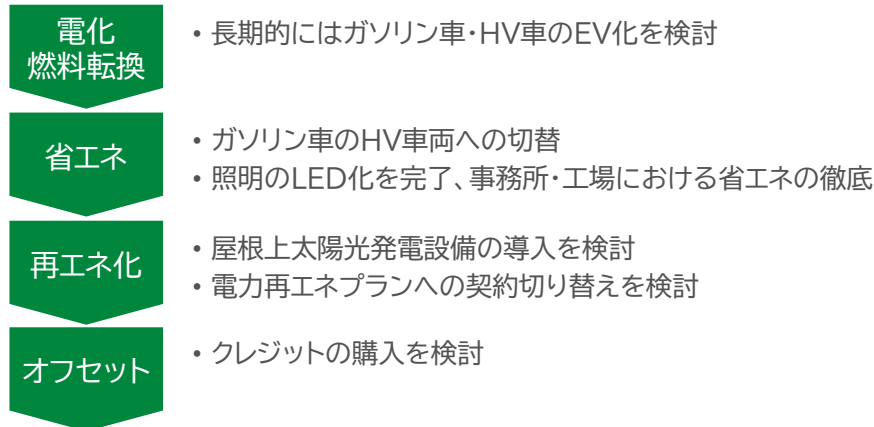


部門	エネルギー種別	年間使用量	CO2排出量
Scope1	ガソリン	19.4 kL	44.9 t-CO2
Scope2	電気	219,766 kWh	104.4 t-CO2
合計			149 t-CO2

自社GHG排出量の削減に向けた取組

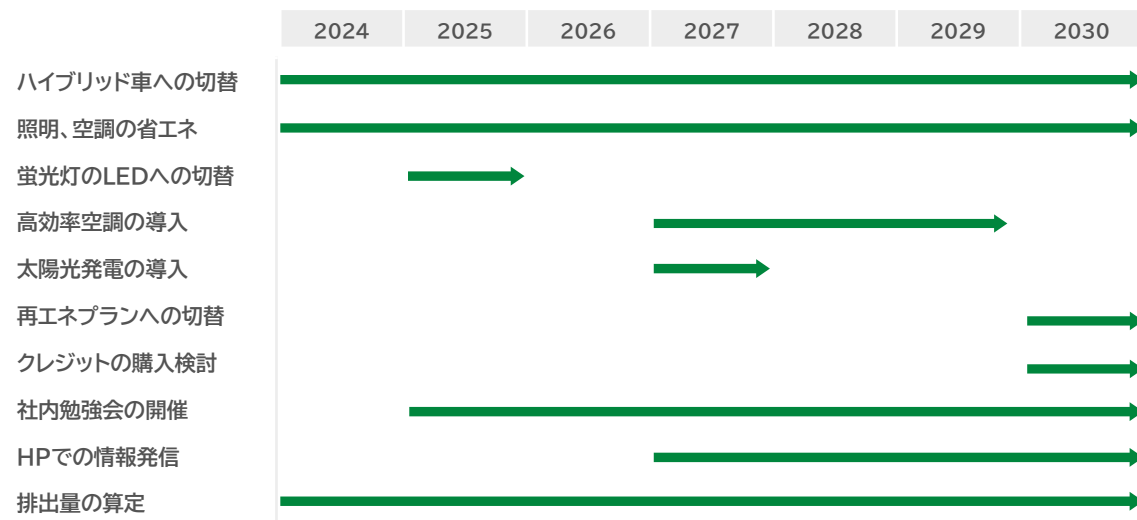
削減計画の策定

削減の流れ



削減目標：2030年度までに42%削減(2023年度比)

削減ロードマップ



GX経営の流れ

当社は、「GX」という言葉の意味も良く分からない状態から、本格的なGX取組への一步を踏み出すことができました。トップダウンで経営戦略としてGXへの取組を打ち出したことに始まり、現状把握を行ったうえで、その結果報告を含めて社内全体での共通認識・基礎知識の醸成を図りました。

GX経営方針
の宣言

自社排出状況
可視化

社内機運の
醸成

社内ワークショップの実施

勉強会

全従業員向けに勉強会を開催し、GXの意味や取組意義を改めて共有しました。

経営方針として打ち出したGXについて、その背景や、具体的にはどのようなことに取り組む必要があるのかを再確認できました。

参加者からは、「個人でもできることから始めていきたい」「脱炭素について考えるきっかけになった」との声が上がりました。



グループワーク

GXスローガンの策定

当社のGXスローガン「エコはいつでもおとなりに」は、全従業員が参加するグループワークを通して策定しました。

全従業員を9グループに分け、各グループで1つのスローガン案を創出し、最終的に全体の多数決により1つのスローガンを選出しました。



行動目標の設定

策定したスローガンに沿い、ひとりひとりが今後の取組目標を設定しました。

「照明をこまめに消す」「食べ物を残さない」など、日常的な取組目標も多く、小さな取組をコツコツと積み重ねることの重要性を改めて再認識してもらえたことが分かりました。



ひとづくり委員会活動

これまで会社をあげて「地域に感動を与える人づくり」を行ってきました。具体的にはお客様にとって想像を超えるサービスやものづくりを行い、感動や喜びを提供できるかを常に考える人財です。そしてお客さまだけでなく、社員同士、地域社会に対しても、感動を共有し、喜びを与えることができる人づくりを行います。

その一環として「ひとづくり委員会活動」を行なっています。ひとづくりをテーマに、5SやSDGsなどを考えることを全社において委員会を組織し実施しています。勉強会などさまざまな取組を行うことで「地域に感動を与える人づくり」を目指しています。

